

「～ながラー」になるには

岐阜ではじめる
アートコミュニケーション、
あなたもやってみませんか？



応募条件

- 16歳以上の方※、日本語での日常会話ができる方
※2025年4月時点、ただし18歳未満は保護者の同意が必要
- 美術または美術館に関心があり、アートやコミュニケーションについて積極的に学び、活動する意欲のある方
- 「館長のメッセージ」を理解し、共感して活動できる方
- 基礎ゼミ全7回に原則としてすべて参加可能な方

実施予定日 2026年4月11日 国、4月25日 国、5月9日 国、
5月23日 国、6月6日 国、6月20日 国、7月4日 国

※日にち及び開講回数は変更になる場合がございます

- 2026年8月以降、原則として月2回以上の活動に参加可能な方
- インターネットにアクセスでき、パソコンなどでのメール送受信やオンラインミーティングツール(Zoom)の使用ができる方

応募方法

以下①～③の書類を入れた封筒に
「アートコミュニケーター応募書類在中」と赤で記し、郵送してください。

- ①応募用紙
本紙に添付の書式に、必要事項を記入してください。
- ②返信用封筒1通
定形封筒(長形3号)に110円切手を貼付の上、宛先欄に応募者の郵便番号、住所、氏名を明記してください。
- ③課題
「アートコミュニケーターに応募する動機と、その背景になっているあなたにとって重要な体験について」述べてください。美術館での体験でなくても構いません。

【書式】
A4用紙片面1枚にまとめてください。記載様式は自由ですが、2枚目以降の記載や、裏面への記載、規格外の用紙の使用は選考対象となりません。また、ご自身で用意した用紙を使用する際は、必ず氏名を記入してください。

応募書類郵送先

〒500-8368 岐阜県岐阜市宇佐4-1-22
岐阜県美術館 アートコミュニケーター募集担当 宛

※一度提出していただいた応募用紙等の書類は返却いたしません。
※応募者の個人情報は、アートコミュニケーターの選考に関する以外には一切使用しません。

活動のやくそく

1. アートコミュニケーターの活動は無償です。
2. 交通費、謝礼等の支給はありません。ただし、ゼミ及び随時開催される研修に無料で参加できます。
3. アートコミュニケーターの登録期間は最長3年間で、年度ごとに更新します。(2026年度の活動は2027年3月まで)。次年度以降は本人と岐阜県美術館が双方合意のうえ登録更新します。

活動場所

岐阜県美術館など

スケジュール

応募受付期間

2025年11月1日 土 ～ 2026年1月9日 金 消印有効

1次選考：書類審査

※選考結果は2026年1月下旬までに郵送にて応募者全員にお知らせします。

2次選考：面接

2026年2月6日 土 ～ 8日のいずれか1日

※所要時間は1時間ほどです。日時は後日連絡します。

選考結果発表

2026年2月下旬2次選考対象者全員に
郵送にてお知らせします。

アクセス

- JR東海道線 JR「岐阜駅」下車 → タクシーまたは岐阜バス JR「西岐阜駅」下車 → 徒歩で15分
名古屋駅から西岐阜駅まで約25分
- 名神高速道路 岐阜羽島インターチェンジから
県庁方面に向かって北進約10km
- 東海北陸自動車道 岐阜各務原インターチェンジから
国道21号線を西進約10km
- 東海環状自動車道 岐阜インターチェンジから
国道77号線を南進約10km

無料駐車場あり

※駐車場については岐阜県美術館webサイトをご確認ください



ウェブサイトでは、今年の活動の様子や、「～ながラー」へのインタビューを掲載しています。よくある質問コーナーなどもご参照ください。
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/ac/>

2026年度

岐阜県美術館

アート コミュニケーター

7期

募集人数 25人程度

受付開始 2025年 11月1日 土

締め切り 2026年 1月9日 金 消印有効

美術館を拠点に、
美を楽しみ学びながら、
人と人のつながりをつくりながら、
社会に目を向けながら、
一緒に活動しませんか？



募集!

詳細は岐阜県美術館
ウェブサイトをチェック!



お問い合わせ

「～ながラー」7期募集イベント



2025年 11月3日 月・祝
会場 / 岐阜県美術館

2025年 12月21日 日
会場 / 未定



アートコミュニケーター

～ながら～

とは

岐阜県美術館を舞台に活動し、アートを通して生まれるコミュニケーションを大切に、
岐阜に生きる人や事柄と結びつきながら、人と人、人と作品、
人と文化を繋いでいく活動をするのがアートコミュニケーター(愛称「～ながら」)です。
「～ながら」には、「～しながら」と、岐阜に流れる「長良」川の2つの意味が込められています。
「～ながら」は様々な背景を持った多様な人々を結びつけるコミュニティ作りに取り組んでいます。
「～ながら」の活動は3年間です。
任期終了後には、美術館での学びや体験をそれぞれのコミュニティで発揮し、
新たな価値観や関係性を社会にひらいていきます。



館長のメッセージ

自分のペースでちゃんと関係性をとりながら、
自分のこととして引き受けながら、相手のことを考えながら。

コミュニケーションというのは当然一人ではできない。
相手があること。二人の間で「ながら」が生まれる。

一人よがりにならずに、
もう一つの存在と、対話しながら、関係性をとりながら。

岐阜県美術館長 日比野 克孝



～ながら～



ぜひご覧ください！
「～ながら」の活動公開中！

～ながらが《この舟のろう方式》で企画・制作した、
オンラインで楽しめるコンテンツを公開中！
美術館に対する思いや工夫が込められています。

2026年度 岐阜県美術館アートコミュニケーター ～ながら～

※ペンまたはボールペン(黒)を使用し、楷書で正確に記入してください。(フリクションなど消えるペンの使用は不可)
※一度提出された応募用紙は返却しません。
※ご記入いただいた個人情報は、アートコミュニケーターの選考・運営に関する以外には一切使用しません。

① 応募用紙

年 月 日現在

フリガナ	
氏名	
住所(〒 —)	
生年月日 西暦 年 月 日生 (歳)	
連絡先 電話番号(携帯) 電話番号(自宅) メールアドレス(PC)	
18歳未満の方は、保護者の方が同意の署名をしてください。保護者氏名 アートコミュニケーター「～ながら」への参加に同意します。	

◆これまでの活動や、学歴・職歴、資格などをご記入ください。

期間(西暦)	活動、学歴・職歴など
年 月 ～ 年 月	
年 月 ～ 年 月	
年 月 ～ 年 月	
年 月 ～ 年 月	

資格など

◆あなたの興味・関心・経験などから、あなたをかたちづくる5つのキーワードを教えてください。

--	--	--	--	--

◆アートコミュニケーターの活動で、特に興味のある内容を1つ選んで○をつけてください。

「この舟のろう方式」による自主的な企画	地域に展開・発信していくプロジェクト
美術館の所蔵品を活かしたワークショップ	アートやコミュニケーションに関するゼミ(講座)
その他()	

◆2次選考希望日を2月6日(金)、2月7日(土)、2月8日(日)からお選びください。

詳細は、1次選考結果通知の際にお知らせします。所要時間は1時間程度を予定しています。

第1希望 2月 日() 午前・午後	第2希望 2月 日() 午前・午後	第3希望 2月 日() 午前・午後
--------------------	--------------------	--------------------

◆岐阜県美術館ウェブサイト「アートコミュニケーター」のページを見て、印象に残った内容や活動について教えてください。

--

(確認事項)下記をご確認いただけましたら、チェックを入れてください。

☐ インターネットにアクセスでき、パソコンなどでのメール送受信やweb会議ツール(Zoom)の使用が可能です。

② 返信用封筒 定形封筒(長形3号)に110円切手を貼付の上、宛先欄に応募者の郵便番号、住所、氏名を明記してください。

「～ながラー」の活動のながれ

「～ながラー」になったら、アートと多様なひと・事柄を結び、地域をうるおすことを目指します。

「自分ごと」として問題を捉え、自主的なグループ(舟)での活動を実行できるようにします。

家や学校、職場とは違う、第三の場である美術館。さまざまな関心、背景をもつ多様な人々と出会い、活動がスタートします!

1

基礎ゼミ

(4～7月、全7回)

※日程および開講回数を変更する場合があります

アートコミュニケーターについての基礎的な考え方や、対話のあるコミュニティづくり、美術館の在り方について考え学びます。

たとえば、
こんな活動!



ミュージアムの特性を活かした活動とは?

アートコミュニケーターの社会的役割について学ぶ

きく力

「～ながラー」のコミュニケーションの基本となる「きく」ことについて学ぶ

会議が変われば社会が変わる

「～ながラー」の活動に欠かせない、ミーティングの理想的なスタイルや具体的な手法を学ぶ



ミュージアムの特性を活かした活動とは?



きく力



会議が変われば社会が変わる



自分の発言が
肯定的に
受け止めてもらえた

2

実践ゼミ

(9月～不定期)

多様な来館者に寄り添うためにアートコミュニケーターの在り方について考えるゼミです。美術館の活動で大切なことや、アートと人、社会との関わり方をテーマにして学びを深めます。

たとえば、
こんな活動!



作品鑑賞と「～ながラー」

鑑賞手法やファシリテーターの技術を学び、鑑賞を軸に多様な来館者に寄り添うために自分たちができることを考えました。



作品鑑賞と「～ながラー」

アクセスと「～ながラー」

多様な背景をもつ来館者に寄り添い、美術館を楽しんでもらうためにどのような意識をもって存在すればよいか考えました。



地域資源と「～ながラー」

岐阜県を中心に展開されるアートプロジェクトや人々のつながりを通して、「地域資源」について実践を交えながら考えました。



地域資源と「～ながラー」

3

この舟のろう方式

たとえば、
こんな「舟」

おしゃべり鑑賞丸

来館者の年齢に合わせた「おしゃべり鑑賞会」の開催



おしゃべり鑑賞丸

こぐまのしろく丸

館内で絵本の読み聞かせ+館内ミニツアーを開催



こぐまのしろく丸

ホモ・サピエンスの鳴き声丸

作品を鑑賞し、感じた事を「なきごえ」(擬音語、擬声語や身振り等)で表現する体験を実施



ホモ・サピエンスの鳴き声丸



各チームには、
舟をイメージして
「～丸」などの
愛称をつけます

アーティストや、美術館にまつわる人、岐阜にゆかりのある人々と出会い、創造とコミュニケーションの場をつくります。
作品や人を通して社会とつながりながら、活動を広げていきます。

イベントに関わった
参加者の
笑顔が嬉しい

明後日朝顔丸

日比野克彦アートプロジェクト「明後日朝顔」への取り組み方や発信の仕方を試し、他の参加地域と交流しながら、思いを巡らせる



明後日朝顔丸

こよみのよぶね丸

地域のアートプロジェクトに参加し、アートコミュニケーターならではの関わり方を模索する



こよみのよぶね丸

3年目マイポート

任期満了を迎える年度に実施する「～ながラー」独自の自主プロジェクト

得意分野で
できることをもちより、
形にしていながら
活動しているよ



4

美術館から、 それぞれの活動へ出港!

こんな
活動を
している人
がいます

- 文化リンクワーカー
- 地域アートイベントへの出展
- ワークショップ開催 など

3年後の3月には「～ながラー」の任期を修了し、出港。次のステップへ!
もと居た場所や社会という広い海で、学んだこととともに、それぞれの創造力を発揮した活動をしていきます。



「～ながラー」の足跡 ～〇〇しながラー、こんなことやってみた～



1年目から3年目まで、例えばこんなことに挑戦して、こんな学びや楽しみがありました。

舟活動ミーティング

「ホモ・サピエンスの鳴き声丸」



作品を鑑賞して得た言語化しにくい感覚を「なきごえ」(作品を見た感覚を表す擬音や擬声語を示す造語)で表現する舟です。様々な問いにみんなで向き合いながら、議論を重ねて企画書を練り上げていきました。

「～ながラー」の声

「基礎ゼミで学んだ事をミーティングの中で実践し、成長しながら進む事ができました。核となる部分を明確にし、変化を楽しみフォローし合いながら、実現に向けて諦めずに皆で舟を漕ぎ続ける事の大切さを実感しました。(5期「～ながラー」みえさん)



企画実施

「『流し』の鑑賞フレンド丸」



展示室内にて一定時間待機し、来館者が作品を観たとき湧き出る感想や「誰かに話してみたい」という思いに寄り添い、お話を聴く活動を企画しました。

「～ながラー」の声

「作品の感想やお話をお聞きし、私自身もより楽しく多様性に富んだ深い鑑賞体験ができたこと、何より嬉しかったです。アートを介してコミュニケーションすると皆さん笑顔になる様子が印象に残っています」(4期「～ながラー」てるさん)



団体鑑賞のファシリテーター



2024年度より、対話による鑑賞や、来館者と接する実践の場として、岐阜県美術館 教育普及係に申し込みが来ている団体鑑賞に希望して参加できるようにしました。経験を増やし、活動の幅を広げるために多くの「～ながラー」が参加しました。

「～ながラー」の声

「ファシリテーターとしてはまだまだ未熟ですが、これからできる限り参加させていただき、子どもたちの純粋さに触れ、少しずつ度胸をつけていきたいです。」(5期「～ながラー」まみむめもさん)



3年目マイポート



任期満了を迎える年度に実施する「～ながラー」独自の自主プロジェクトです。修了後、自身のフィールドに戻ることを想定し、企画立案から一人で組み立て実施しました。

「～ながラー」の声

以前とある環境学習施設で体験プログラムの案内人をしていました。そこでの取り組みが～ながラー活動と共通すると感じ、ぜひ他の～ながラーさんにもこのプログラムを体験してほしいとの思いで企画しました。参加した方から「やりたい事のヒントが見つかり、ビビビとしました!」と感想をいただき、体験を共有できてよかったと感じています。(4期「～ながラー」あきちさん)

コラム

「～ながラー」運営スタッフにインタビューしてみました!

「～ながラー」の募集も7回目になりましたね!

そうなんです!岐阜県美術館のリニューアルを機に始まったアートコミュニケーション事業だから、もう7年か!感慨深いね～

全国11カ所にもアートコミュニケーターがいて、つながりも増えましたね。

他の地域のアートコミュニケーターさんが岐阜県美術館を訪ねてくれたのはうれしかったな。

「～ながラー」発信の企画やイベントも、年を追うごとに活発になっていますね!

「～ながラー」同士、対話の中から丁寧にミーティングを繰り返していく姿勢はすごい熱量なんです!

身近な社会課題に目を向けて、自分ごととして考えて、来館者や地域に目を向けた活動が増えてきたよね。

そうやね。

では、7期「～ながラー」の応募を考えている人に向けて、メッセージをお願いします!

多様な人々と出会い、楽しみ、一緒に学びながら活動できる仲間をお待ちしています!

③ 課題

「アートコミュニケーターに応募する動機と、その背景になっているあなたにとって重要な体験について」述べてください。美術館での体験でなくても構いません。

[書式] A4用紙片面1枚にまとめてください。

記載様式は自由ですが、2枚目以降の記載や、裏面への記載、規格外の用紙の使用は選考対象となりません。

また、ご自身で用意した用紙を使用する際は、必ず氏名を記入してください。

氏名